

The background of the cover features a stylized, light blue globe with a white grid of latitude and longitude lines. The globe is partially obscured by dynamic, sweeping blue and white curved lines that create a sense of motion and modernity. Scattered throughout the design are small, semi-transparent circles in white and light pink. In the upper left corner, there is a pattern of thin white hexagons.

Kojima Sustainability Report 2026

縦横無尽に、世界を変えろ

私達は知っている。

良き家庭を原点に、会社、社会を発展に導く「和」のDNAと、
人をつくり、人の自立を尊重することの大切さを。

一人ひとりが愚直にカイゼンを重ねることで、
期待を越えるモノづくりを果たしていけることを。

時代は、大きく変わろうとしている。この複雑で不確実な世界では、
昨日までの常識が、明日新しいルールに置き換わる。

しかし、私達の原点、「人」と「和」が揺らぐことはない。
そのつながりを、次の時代に合った形で、強くしていく。

それは、たったひとりの自由な創造性を互いに認め合い、
部門の垣根を超えて融合し、自ら新しい「流れ」をつくりだすこと。

Kojimaには、長い歴史の中で多くの先輩が培ってきた各部門の専門性・固有技術など、
事業領域を磨き抜いてきた「縦軸」の絶対価値がある。そして、それらを横断して束ね、
全社共創のシナジーを生む、「横軸」での未来の可能性も広がっている。
私達は視座を高め、視野を広げゼロベースで挑戦していく。

さあ、縦横無尽に挑戦しよう。

一人ひとりが「考動」し、制約も、常識も、軽々と超えていこう。
テクノロジーの未知なる力を解き放ち、世の中に新しい喜びを造り出そう。

Kojimaと組めば、人も、企業も、素晴らしい未来へと成長できる。
この国に、世界に、驚くような価値を生み出していく。

私達は、本気でそう思っている。

Kojimaは、変わらずに、変わり続ける

シナジーを 最大化する 全社協働体制へ

取締役社長 小島 栄二



当社は1938年の創業以来、トヨタ自動車株式会
社を主要得意先とし、幅広い自動車部品の開発・製
造に携わってまいりました。

社は『和』と『人中心の経営』を基本理念に、ミッ
ション・ビジョン・バリューを掲げ、自動車業界の
変革に対応しながら、内装事業、外装・ユニット事
業、新事業の3本柱でさらなる成長を目指しており
ます。

現在、自動車業界は原材料費の高騰や海外OEM
の台頭など、大きな変化に直面しており、先行きの
不確実性は一層高まっています。こうした環境下
においては、会社や部門の枠を超えた連携が不可欠
だと考えています。そのため当社は、今年度より『全

社協働体制』へと組織を進化させ、オール小島での
連携強化に取り組んでおります。

さらに、シナジーを最大化するため、各社の基盤
技術の共有や社員同士が切磋琢磨を進める中で、
一人ひとりの主体的な考動によって、競争力の強化
と新たな付加価値の創出に努めてまいります。

当社はこれからも、長年培ってきた技術力とグ
ループの総合力を活かし、世の中の変化に対し柔軟
かつ力強く対応してまいります。社員一人ひとりの切
磋琢磨により企業体質を強化し、ステークホルダー
まで含めた『和』の具現化に精進してまいります。

今後とも皆様の温かいご支援とご鞭撻をよろしく
お願い申し上げます。

我社の本領は最大の會社たらんとするに
あらずして常に良品を製造する會社で有る事



基本理念

■ 社是



会社内だけの『和』ではなく、より広範囲におよぶ『和』、
すなわち家庭の『和』を基盤とする集合が会社、地域、さらに
国際社会の発展につながると考えています。

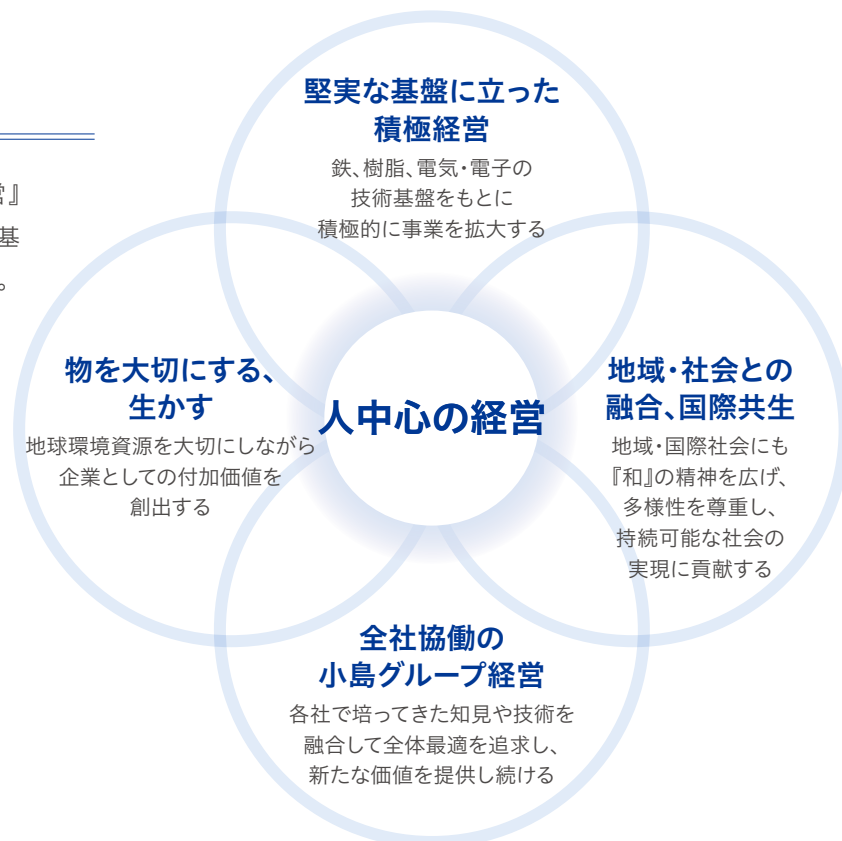
■ 長期テーマ

人をつくり 人をまもる
対話と参加

社是『和』の精神を受け、相互に対話し参加して、社会に貢献
できる企業人を育み、真に豊かな人づくりを目指しています。

経営の基本的考え方

経営の基本的考え方は『人中心の経営』
をがくとして、4枚の花びら(4つの経営の基
本)が咲いている姿で表すことができます。



MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)

これからの先行き不透明な時代を乗り越えるための羅
針盤として、MVV(ミッション・ビジョン・バリュー)を策定
しました。また、MVVは創業から脈々と受け継がれている
基本理念の考え方をベースに構成しました。2038年に迎

える創立100周年に向けて、全社員が共通認識を持って
ベクトルを合わせ、世の中に新しい価値を生み出す企業
を目指します。



VALUE Kojima Way

オール小島全社員共有の価値観・行動指針である
バリュー、総称『Kojima Way』。7つの言葉の先頭に
は『考動しよう』を入れており、その考え方の本質や

意味合いも端的に併記しています。この7つの価値観
を基に一人ひとりが考え動くことで、ミッションとビ
ジョンの達成を目指します。

- | | |
|-------------------------|--------------------------------------|
| 考動しよう、「あなた」のために | ～自分のお客様の期待を正しく理解して、思いやりを持って誠実に向き合おう～ |
| 考動しよう、好奇心を持って | ～視野を広げて、あらゆる角度から見極めよう～ |
| 考動しよう、先を見据えて | ～その先にある未来を想像して、可能性を広げよう～ |
| 考動しよう、一回でも多く | ～素早く迅速に挑戦のサイクルを回して、変化を乗り越えよう～ |
| 考動しよう、余力を生み出すために | ～改善を積み重ねて、次に進むエネルギーを生み出そう～ |
| 考動しよう、今以上を目指して | ～技を極めて、情熱とともに未来につなごう～ |
| 考動しよう、「わたし」のために | ～自分の仕事に自信と誇りを持って仕事をしよう、そして仲間に感謝しよう～ |

ALL Kojima Technologies

6つの基盤技術が交わる
協創のシナジー

オール小島の強みは、
モノづくり、設計、電子、実験、材料、環境
という6つの基盤技術を掛け合わせ、
新たな価値を導き出す力にあります。
そこにお客様が抱くビジョンが掛け合わさって初めて、
革新的なイノベーションが生まれます。
小島プレス工業・小島グループ各社は協創を大切にしながら、
持続可能な未来への社会実現を目指して、
縦横無尽に挑戦を続けていきます。



ラインナップ

当社は約1万2,000点の自動車部品を製造しています。

『良いものを、より安く、タイムリーにお客様へ届ける』というモノづくりの原点に立ち、お客様のニーズに応えるため、新技術・新製品の開発に取り組んでいます。



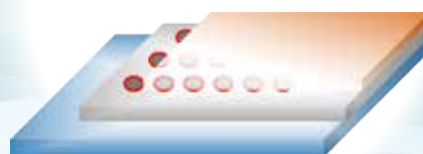
ワイヤレスチャージャー

スマートフォンのワイヤレス充電需要の拡大に対応した車載用Qi充電器です。車種ごとに異なるトレイデザインに柔軟に対応しながら、充電器本体は標準化を実現。置くだけで充電できる快適な車室空間づくりに貢献しています。



Ma'mold

菌・カビの繁殖を抑制する青果物用防カビシートです。スパッタリング加飾による薄膜技術を起点に、蒸着重合へ展開した技術の副産物として農業分野への挑戦につながっています。



エアガイド

車両前方部に搭載され、バンパーグリルから入る風を効率的に熱交換器へ届ける製品です。



DAC

モビリティに搭載し、移動による走行風で大気中のCO₂を回収する『移動型パッシブDAC』です。流動解析技術により効率良く風を集める構造を実現しています。

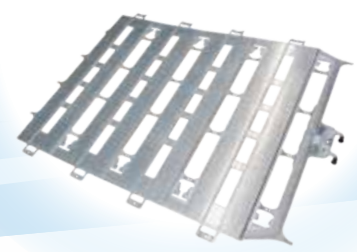
電池ケース

走行用モーターに電力を供給するニッケル水素2次電池用の樹脂製ケースです。



水冷冷却器

協力会社と共同開発した製品です。製品内の水路に冷却水を流して均一に電池を冷やします。



イルミネーションユニット

車室内空間を光で演出します。インストルメントパネルや天井、ドアトリムなど、車室内の様々なスポットで快適な空間演出に貢献しています。



フロアアンダーカバー

車体下部の空気の流れを整えることで、空気抵抗を下げる製品です。ASR(自動車破砕残さ)を原料とした生産を実現しています。



ターボチューブ

ターボコンプレッサー、インタークーラー、スロットルボデーのそれぞれを接続する配管で、ターボで圧縮された空気をエンジン内部へと届ける製品です。



ピラー

フロントガラスの両側に配置され前方の視界確保と車両の屋根を支える製品です。樹脂成形と塗装を同じ工程内で実施する『型内塗装(インモールドコーティング)』を用いた生産を実現しています。



コンソールボックス

触感の良いアームレストと収納ボックスを備え、機能とデザイン性を両立させた様々なリッド開閉構造のバリエーションを揃えています。

レジスター

車室内の送風口として温度環境をコントロールする製品です。自動的にフィンが動くスイングレジスターも生産しています。



リア席用大型ランプモジュール

全長1,800mmの大型ランプモジュール製品です。加飾・照明・レジスター・スイッチ・小物入れを狭小スペースへ搭載し、車室内の解放感を演出しています。



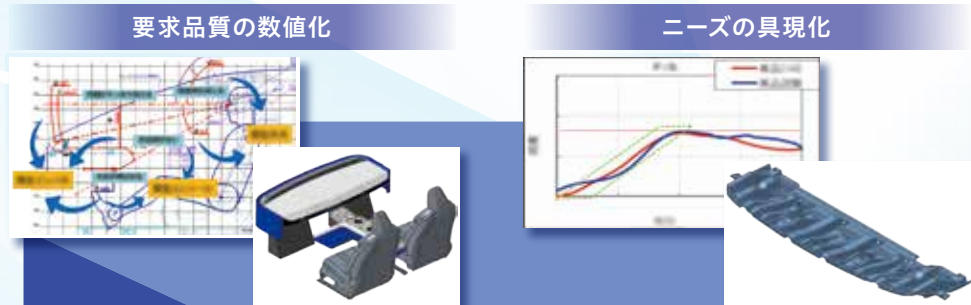
造るものをつくる



モノづくり

『造るものをつくる』の精神のもと、独自設備の開発に始まり、自動化・省人による生産性向上を追求しています。3Dプリンターを活用した設備備品の創出や、からくり技術の教育・展開を推進することで、競争力強化に挑戦し続けています。

ユーザーに寄り添う設計開発



設計

製品構想から量産化までを見据えた設計力で、お客様のニーズを形にします。モノづくり・設計・電子・実験・材料・環境のノウハウを蓄積する当社だからこそできる設計プロセスにて、価値ある製品づくりを支えています。

車室内空間の演出



電子

国内外の知見を結集した設計から製造まで一貫して手がける技術で、新たなモビリティ体験を創出します。的確にとらえたユーザーニーズを光・音・香りなどの電子技術の知見と技術でつなげ、快適な車室内環境とお客様の『欲しい』の実現に挑戦し続けています。

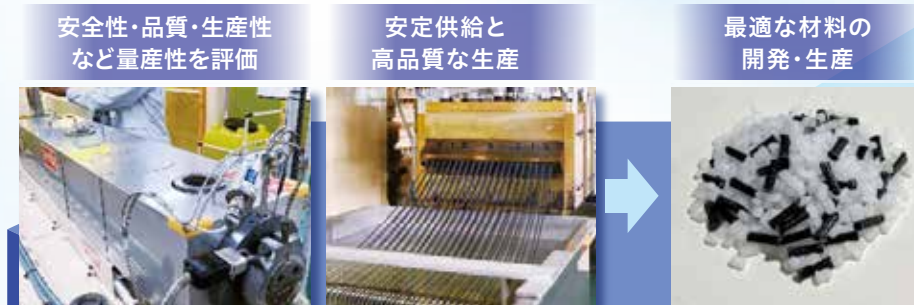
製品設計を支える実験技術



実験

製品設計を支える実験技術で、製品の良し悪しを定量評価する試験技術と手法を自社で開発します。確かな評価プロセスによって、品質の維持・向上と新製品の開発を加速させる軸となる技術です。

要求品質に合わせた最適な材料をつくる



材料

材料の設計から製造までを担う一貫した通貫の知見で、製品の軽量化・高機能化・意匠性の向上およびコスト低減に貢献しています。製品に合ったムダのない材料づくりや最先端の材料開発によって期待を超え続ける提案を実践しています。

カーボンニュートラル・資源循環への貢献



環境

『物を大切に、生かす』の経営理念のもと、『物の命を全うせよ』『古を生かす』の精神を土台に、環境負荷の低減と持続可能な社会の実現を目指した技術開発を推進しています。回収・再生までを考えた、サステナブルなモノづくりを実践しています。

拠点紹介

オール小島では、製造業の原点である『良いものを、より安く、タイムリーにお客様へお届けする』ことを追究し続けています。ここでは、さらなる飛躍を目指して一丸となって取り組んでいる、小島プレス・グループ各社を紹介します。



愛知県内の拠点



1 小島プレス工業株式会社
愛知県豊田市下市場町3-30
社 員 数／1,625名
事業内容／自動車内外装部品、パワートレイン周辺部品の製造
主要製品／カウルルーバー、コンソールボックス、バッテリーケース、内装加飾パネル、オーバーヘッドコンソール、ヒーターコントロール

下市場工場
愛知県豊田市下市場町3-30
事業内容／金属・樹脂部品の生産



小島総合研究所
愛知県みよし市福谷町広久伝15
事業内容／自動車部品・新事業の研究開発



高岡工場
愛知県豊田市住吉町平和55
事業内容／樹脂部品(内装・外装)の生産



豊橋工場 (2027年度に稼働予定)
愛知県豊橋市明海町3-50
事業内容／樹脂部品(内装・外装)の生産



黒笹技術センター
愛知県みよし市黒笹町丸根1099-2
事業内容／電子部品の開発・設計・試作・生産、生産技術の開発



前田作業所
愛知県豊田市前田町2-48
事業内容／精密鉄部品のプレス加工・切削など

足助作業所
愛知県豊田市桑田和町北貝戸20-20
事業内容／自動車用樹脂部品の製造

駒場工場
愛知県豊田市駒新町金山59
事業内容／補給部品の保管・梱包・出荷



2 内浜化成株式会社
愛知県豊田市四郷町宮下河原1
社 員 数／536名
事業内容／自動車外装部品、エンジン機能部品、FRP・非量産部品の製造
主要製品／ロッカーモール、オーバーフェンダー、カメラカバー、スライドレールカバー



3 真和工業株式会社
愛知県豊田市西中山町丸根25-1
社 員 数／205名
事業内容／自動車金属・樹脂部品事業、航空機部品事業、物流器具事業
主要製品／オーディオブラケット、ハイブリッド関連部品、カメラカバー、インパネ・コンソール関連部品、航空機部品



4 大和化成工業株式会社
愛知県岡崎市保母町字上平地1
社 員 数／405名
事業内容／自動車部品の製造
主要製品／ワイヤーハーネスクランプ、ワイヤーハーネスプロテクター、各種クリップ



5 ブラマック株式会社
愛知県豊田市御船町山ノ神56-321
社 員 数／268名
事業内容／自動車用樹脂部品の製造
主要製品／フロアカーパー、エンジンアンダーカバー、四方ダクト、フェンダーライナー、アブソーバー



6 昌和合成株式会社
愛知県みよし市荻生町池上12
社 員 数／243名
事業内容／自動車用内装部品の製造
主要製品／ドアグラブ、インサイドドアハンドル、本木・フィルム部品



7 株式会社フレックスキャンパス
愛知県岡崎市鴨田町字末広50
社 員 数／74名
事業内容／自動車部品の製造
主要製品／ワイヤーハーネスクランプ、各種クリップ



8 丸和電子化学株式会社
愛知県豊田市神池町2-1236
社 員 数／322名
事業内容／自動車用電子部品の製造
主要製品／オーバーヘッドコンソール、ヒーターコントロールなどの電子部品



9 豊和化成株式会社
愛知県豊田市西中山町西宮前45-1
社 員 数／525名
事業内容／自動車用内装プラスチック部品の製造
主要製品／レジスター、スピーカーグリル、アシストグリップ



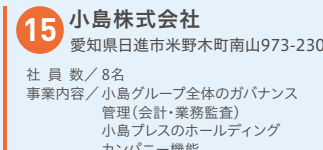
10 ハマプロト株式会社
愛知県みよし市福谷町四反田16-1
社 員 数／149名
事業内容／自動車用樹脂部品、鉄部品の製造
主要製品／BEV・PHEV・HEV向け電池関連部品



14 テクノハマ株式会社
愛知県豊田市深見町島目1026
社 員 数／99名
事業内容／自動車樹脂部品用金型の設計および製作



11 東和ブロー株式会社
愛知県豊田市神池町2-1236-555
社 員 数／73名
事業内容／自動車樹脂部品の製造
主要製品／ターボチューブ、オイルセパレータなどのエンジン付帯部品



15 小島株式会社
愛知県日進市米野木町南山973-230
社 員 数／8名
事業内容／小島グループ全体のガバナンス管理(会計・業務監査)
小島プレスのホールディングカンパニー機能



12 小島産業株式会社
愛知県みよし市荻生町上永井田50
社 員 数／111名
事業内容／自動車部品用合成樹脂材料および薄板銅板の販売、合成樹脂材料着色造粒加工、合成樹脂材料リサイクル加工
主要製品／薄板銅板、合成樹脂材料、合成樹脂リサイクル材料



16 株式会社眞栄
愛知県豊田市花丘町3-16-10
社 員 数／38名
事業内容／総合建設業および施設管理業務、一級建築士事務所、不動産取引業

19 一般財団法人 コジマ財団
愛知県名古屋市中区熱田区伝馬1-4-20
事業内容／外国人留学生への宿泊施設の提供並びに諸事業の助成



13 総和運輸株式会社
愛知県豊田市西中山町丸根25-1
社 員 数／59名
事業内容／輸送事業、物流事業

17 社会福祉法人 こじま福祉会
こじまこども園
愛知県豊田市金谷町7-30
職 員 数／44名 事業内容／保育事業
こじまキャンパス
愛知県豊田市住吉町平和77-2
職 員 数／38名
事業内容／自動車用樹脂部品の製造
主要製品／ドアロックノブ、エンブラー部品

豊田市さくらワークス
愛知県豊田市大成町2-1
職 員 数／10名 事業内容／製菓製造・販売
主要製品／クッキー各種

20 こじま健康管理センター
愛知県豊田市金谷町7-20

小島健康保険組合
社 員 数／9名
事業内容／健康保険事業
小島企業年金基金
社 員 数／2名
事業内容／企業年金事業

愛知県外の拠点



21 明和工業株式会社
岐阜県多治見市笠原町993
社 員 数／236名
事業内容／自動車部品の製造
主要製品／カップホルダー、小物入れ、コインボックス、加飾(スパッタリング)、灰皿



22 明光化成工業株式会社
岐阜県恵那市明智町字大久手1001-228
社 員 数／266名
事業内容／自動車用樹脂部品の製造
主要製品／アシストグリップ、ピラッグリップ、シフトノブ



23 上松電子株式会社
長野県木曽郡上松町大字上松188
社 員 数／285名
事業内容／自動車部品の製造
主要製品／通信USB、充電USB、e-ラッチ、マイク、アンテナ



24 九州小島株式会社
福岡県宮若市磯光野々志原1010-5
社 員 数／276名
事業内容／自動車用電子部品、樹脂部品の製造
主要製品／オーバーヘッドコンソール、コンソールボックス、ドアグラブ、表皮巻き・フィルム部品などの内装加飾部品

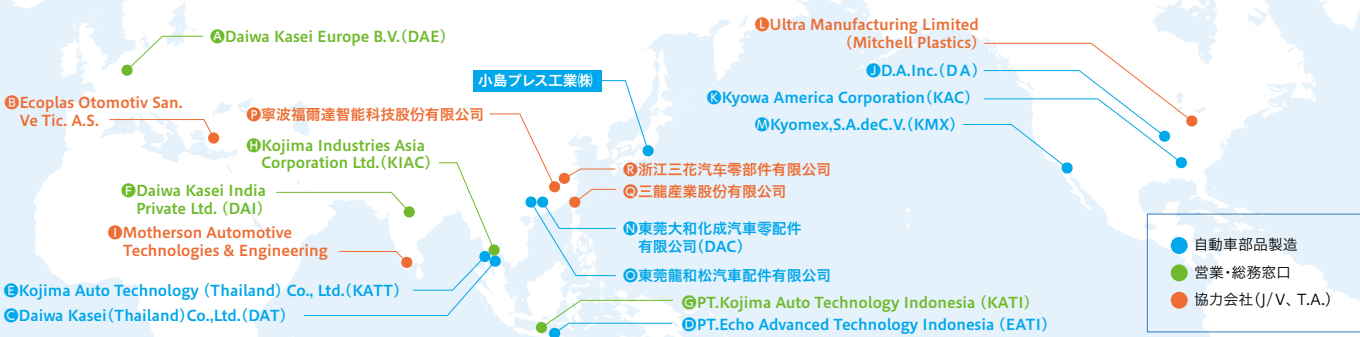


25 協和電機化学株式会社
埼玉県飯能市西台2-5-1
社 員 数／252名
事業内容／自動車部品の製造
主要製品／アーチモール、ロッカーモールなどの外装部品、コンソールボックス、シフトパネル、ドアグラブ、カメラブラケット、ルーフコンソールなどの内装部品



26 東北小島株式会社
岩手県北上市相去町山根梨の木43-130
社 員 数／88名
事業内容／自動車部品の製造
主要製品／コンソールボックス、カウルルーバー、内装加飾パネル

海外拠点



Europe

A Daiwa Kasei Europe B.V.(DAE) オランダ
社員数／5名
事業内容／ヨーロッパの営業窓口（クランプ、クリップ、プロテクター）

B Ecoplas Otomotiv San. Ve Tic. A.S.

Asia

C Daiwa Kasei (Thailand) Co., Ltd.(DAT) タイ
社員数／230名
事業内容／クランプ、クリップ、プロテクターなどの製造

F Daiwa Kasei India Private Ltd.(DAI) インド
社員数／16名
事業内容／インドの営業窓口（クランプ、クリップ）

I Motherson Automotive Technologies & Engineering

D PT.Echo Advanced Technology Indonesia (EATI) インドネシア
社員数／168名
事業内容／レジスター、センタークラスター、インサイドハンドルなどの製造

G PT. Kojima Auto Technology Indonesia (KATI) インドネシア
社員数／62名
事業内容／インドネシアの営業・技術窓口

E Kojima Auto Technology (Thailand) Co., Ltd. (KATT) タイ
社員数／468名
事業内容／レジスター、カップホルダー、マップランプ、オーバーヘッドコンソール、USBジャック、インサイドハンドル、ルーバーカウルトップなどの製造

H Kojima Industries Asia Corporation Ltd. (KIAC) タイ
社員数／203名
事業内容／国際ビジネスセンターとしての一般マネジメント、技術支援、営業サポート、販売促進、人事、教育、関連会社に供給する材料の調達

North America

J D.A.Inc.(DA) アメリカ
社員数／90名
事業内容／クランプ、クリップ、プロテクターの製造

L Ultra Manufacturing Limited (Mitchell Plastics)

K Kyowa America Corporation (KAC) アメリカ
社員数／87名
事業内容／オイルセパレーター、ドアパネル、ロッカーパネル、バッテリー樹脂部品などの製造

M Kyomex,S.A.deC.V. (KMX) メキシコ
社員数／438名
事業内容／バンパー、インパネ、オーバーフェンダー、スポイラー、アンテナカバーなどの製造

China, Taiwan

N 東莞大和化成汽車零配件有限公司 (DAC) 中国
社員数／219名
事業内容／クランプ、クリップ、プロテクターなどの設計・製造・販売、金型製作・販売、電子電池部品・パワトレ部品・ボデー部品の製造・販売

P 寧波福爾達智能科技股份有限公司

Q 三龍産業股份有限公司

R 浙江三花汽車零部件有限公司

O 東莞龍和松汽車配件有限公司 (LHS) 中国
社員数／83名
事業内容／エンドプレート、オイルセパレーター、四方ダクト、アシストグリップ、カメラブラケットなどの製造・販売

会社概要



所在地	愛知県豊田市下市場町3丁目30番地
創業	1938年5月20日
資本金	4億5000万円
代表者	取締役社長 小島 栄二
売上高	2,346億円(2025年)
社員数	1,625名(2026年4月付)
主要取引先	トヨタ自動車(株)、トヨタ車体(株)、トヨタ紡織(株)、トヨタ自動車東日本(株)、豊田通商(株)、(株)アイシン、(株)デンソー、ダイハツ工業(株)、日野自動車(株)、(株)豊田自動織機、(株)ジェイテクト、林デレンプ(株)、トヨタバッテリー(株)、(株)SUBARU、プライム プラネット エナジー&ソリューションズ(株)

沿革

年	主要事項
1917	小島濱吉、名古屋市南区熱田神戸町に小島商店を開業（現・名古屋市熱田区伝馬）
1933	小島商店を法人に改組し、合名会社小島商会となる
1938	合名会社小島商会を小島プレス工業所に改称し、トヨタ自動車工業(株)（現・トヨタ自動車(株)）の協力工場となる【創業元年】
1945	拳母町へ工場疎開（現・豊田市）・拳母町の小坂新工場完成
1950	小島プレス工業所を(株)小島プレス工業所に改組
1957	拳母市下市場町に工場完成（現・豊田市下市場町） プレス部門を下市場工場へ移し、小坂工場で合成樹脂部門が発足
1959	(株)小島プレス工業所を小島プレス工業(株)と改称
1970	豊田市住吉町の高岡工場で合成樹脂部品の一貫生産体制が整う
1978	西加茂郡藤岡町に藤岡研究所が完成（現・豊田市藤岡町） 加工法開発、材料開発、商品開発を主軸とした当社初の本格的な研究開発がスタート
1988	創立50周年を迎える
1994	本社エイワビルが完成。事務・技術部門の機能を集約し、組織運営をスムーズ化
1995	こじま教育センターが開校。愛知県の職業訓練施設として認定を受ける
1999	西加茂郡三好町に小島総合研究所を設立（現・みよし市福谷町） オール小島の総合研究所として最新技術の開発、発展に取り組む
2003	西加茂郡三好町の黒笹技術センターが本格稼働（現・みよし市黒笹町） 電子部品の開発拠点として設計から試作までの体制を整える
2019	自動車業界が100年に一度の大変革期の中、 『インテリア事業・ゼロエミッション事業・新事業』の経営方針を決定
2021	事業領域本部制を導入
2024	MVV（ミッション・ビジョン・バリュー）を策定
2026	全社協働体制へ移行 豊橋工場の第一期建設工事が完了 協豊会会長に小島栄二が就任



Kojima Sustainability



オール小島 サステナビリティガイドライン

2025年4月 策定

私達は創業以来、社是である『和』のもと、常に良品を製造する会社として活動してきました。また、人中心の経営を軸に、環境資源の保護、地域社会との共生などを通じて、社会に貢献できる人づくりを推進しています。今回、当社が事業活動を通じて持続可能な社会を実現するために、以下の指針を掲げます。

01 サステナビリティ基本方針

私達は、ミッションであるモノづくりを通じて世の中に新しい喜びを造るとともに、持続可能な社会への貢献と企業価値の向上に努めます。また、人中心の経営のもと、社員一人ひとりが考動することで、サステナビリティな事業基盤の確立を目指します。

02 行動規範

法と倫理の遵守と公正な事業運営

私達は、法令を遵守し、公正・透明な自由競争を行います。また、社会的秩序や良識に従った行動を取ることで、社会的信頼を絶えず築き上げます。

安全・安心な事業の風土醸成

私達は、すべての労働災害を未然に防ぐモノづくりや、安全意識を高める人づくりを通じて、相互啓発を中心とした安全第一の風土を醸成し、社会に安全・安心を提供します。

自発的に成長する人財の育成

私達は、正しい評価制度の運用や、社員の挑戦を支援する制度を拡充することで、社員が自発的に成長し、社会に貢献できる人づくりを推進します。

サプライヤーへの社会的責任の浸透

私達は、サプライヤーと透明・公正な取引を遵守し、事業活動のパートナーとして切磋琢磨することで、社会的責任の浸透や信頼関係の構築、企業価値の向上を目指します。

環境への貢献

私達は、『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』を構築することで、持続可能な社会への貢献を通じて企業価値の向上のために考動します。

徹底したリスク管理

私達は、リスクを未然に防ぐ管理体制の強化や、迅速なインシデント対応をすることで、様々な外部環境の変化やリスクに柔軟に対応できる企業づくりに努めます。

人権の尊重と働きやすい職場づくり

私達は、事業活動に関わるすべての人々の人権を尊重するとともに、多様な人財に合わせた多様な働き方を確保することで職場環境の風土醸成につなげます。

健康経営の推進

私達は、誰もが健康でイキイキ働ける環境や事業活動を通じて、心身の健康による明るく楽しい職場づくりの実現につなげます。

お客様満足の向上

私達は、お客様のニーズを的確に把握し、期待を超える製品・サービス・価値を提供することで、相互信頼を築き上げます。

地域社会への貢献

私達は、事業活動を通じた地域・社会との融合と、国際社会への貢献を果たすことで、持続可能な共生社会の実現を目指します。

企業情報の開示

私達は、社会的責任を果たすために必要な情報や、透明・公正かつ迅速な意思決定を行う組織体制を開示することで、誠実な事業活動を通じた企業価値の向上に努めます。

2025年4月1日
小島プレス工業株式会社
取締役社長

小島 栄二

マテリアリティ

持続可能な社会を実現するため、当社が考えるマテリアリティ(重要課題)やありたい姿、2025年度の取り組みは以下のとおりです。

項目	マテリアリティ(重要課題)	ありたい姿	2025年度の取り組み
コーポレートガバナンス	透明・公正かつ迅速・即断な意思決定を実施する組織体制の構築	誠実な事業活動を通じた企業価値の向上	●全社員の行動指針となるコンプライアンス規定の策定
	より法令遵守を浸透させる推進体制の構築	法令遵守による社会的信頼の獲得	
	リスクを未然に防ぐ管理体制の構築と迅速なインシデント対応	徹底したリスク管理による社会的責任の遂行	●情報セキュリティ管理体制の強化・監査 ●システム障害対応訓練・サプライヤーへの情報セキュリティ支援
人権の尊重・働きやすい職場づくり	様々な人財・人権の尊重と多様な働き方の提供	多様な人財の働き方に合わせた職場環境の風土醸成	●障がいを持つ社員の活躍 ●積極的な育児休業の取得 ●育児短時間勤務の取得対象者の拡充 ●福利厚生(給食の無償提供)の拡充 ●人事評価システムおよび人事制度重要機能の統一 ●いきいきCUP開催(労働組合主催)による働き方の改善
人財育成	挑戦を支援できる制度の拡充 評価制度の正しい運用	社員の自発的な成長を支援する教育体系	●キャリア形成(人事制度)と連動した教育体系と評価制度の構築 ●節目教育(昇格者教育・キャリア教育・入社教育)の実施 ●選択教育(社内教育・社外教育・挑戦サポート)の実施
健康経営	すべての人がいきいき働くための健康支援	心身の健康による明るく楽しい職場の実現	●抗加齢ドックの実施 ●cocokaraコースの実施 ●全社員向け教育(こじま体操・ストレッチ) ●Amazonビジネスの利用拡大 ●各種イベント(Kojiwalk、こじま杯、スポーツフェスティバル)開催による心身の健康促進
安全・安心な事業活動	安全を自分事としてとらえることができる人づくり	人を中心とした安全文化を醸成し、すべての災害の未然防止	●トップによる安全点検の実施 ●安全衛生委員会による安全相談会の実施 ●オール小島統一立哨による交通事故の撲滅 ●避難訓練、消火設備取り扱い訓練、被災建物応急危険度判定の勉強会による危険箇所のポイントを確認

項目	マテリアリティ(重要課題)	ありたい姿	2025年度の取り組み
お客様満足	お客様の期待に応え、より良い価値を提供	得意先からの期待値を超えることによる相互信頼の向上	●プロジェクト表彰への挑戦 ●トヨタ自動車㈱を始めとする得意先からの表彰への挑戦 ●トヨタ生産方式自主研究会への参画
	良品条件の追究(工程能力の確保) 適正品質の企画(過剰品質の撲滅) 改善できる『品質』人財の育成	お客様の満足につながる、安全・安心・安定した品質の提供	●設計・生準段階からのSSA推進 ●AIを活用した画像検査(データサイエンス道場テーマ) ●本質的な再発防止(良品条件設定/標準化) ●QC教育の継続実施、データアナリスト育成教育の企画
サプライチェーン	サプライヤーとの信用と信頼関係の構築	サプライヤーとともに切磋琢磨し、地域社会に貢献する企業の実現	●サプライヤー社内展示会、個別プレゼンを実施し社内ニーズとのマッチング実施 ●オール小島サプライヤーミーティングによる相互信頼の向上 ●クラウドシステム使用によるサプライヤーとのコミュニケーションの円滑化 ●サプライヤーへの防火点検、BCP点検、情報セキュリティ支援、カーボンニュートラル支援、SSA現地確認会の実施
地域・社会貢献	事業活動を通じた地域・社会との融合、国際社会への貢献	社会課題の解決を通して持続可能な地域・国際社会との共生	●地域交流(地域観桜会・工作教室・地域清掃活動・防犯パトロール) ●地域社会との共生(地域防災協定) ●こじま福祉会活動(こじまこども園・こじまキャンパスの活動・豊田市さくらワークス)
環境マネジメント	カーボンニュートラルの達成	『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』の3本柱の構築による持続可能な社会への貢献	●『省エネ推進会』による工場CO ₂ 排出量低減の活動(省エネ事例:レトロフィット式ラビッドドライヤーの導入) ●リサイクル材を使用したフロアアンダーカバー採用による製品CO ₂ 排出量低減の活動 ●再生可能エネルギーの利用拡大(再エネ率の向上) ●サプライヤーへの脱炭素支援活動と感謝状の授与
	サーキュラーエコノミーの実現		●排出物の量とリサイクル量(率)の明確化 ●クローズドリサイクルへの挑戦
	人と自然が共生する社会の構築		●こじま苑での植生調査と水質・開空度調査実施 ●社員とご家族参加の各種イベント(植生観察会・昆虫観察会・田植え) ●宮川社有林での植樹会活動



コーポレート ガバナンス

ガバナンス体制

ガバナンス

Governance



コーポレート本部長
常務執行役員 堀 智

『全社協働』で経営の質を高める

オール小島経営体制の最適化と経営基盤の強化を重要な経営課題ととらえ、オール小島のマネジメントシステム強化に取り組んでいます。これまで小島グループ経営を『分社分業』の考え方のもと、各社の専門性を高めながら透明・公正かつ迅速な意思決定を実現する体制を構築してきました。2026年度は『本部制』へ移行し、各本部の役割と責任を明確化するとともに、組織を横断した連携を強化することで、『全社協働』の取り組みを加速させています。これまで培ってきた分社分業の強みを基盤に、オール小島としての一体感を高め、さらなる経営の質の向上を目指しています。

また、コンプライアンスやリスクマネジメントの強化に加え、情報セキュリティ体制の充実やインシデント対応訓練を継続的に実施し、変化するリスクへの対応力向上にも努めています。今後も組織・人材・監査などの分野における共通ガバナンス体制の構築を進め、一人ひとりがMVVを自分事としてとらえ『考動』する風土を醸成し、企業価値の向上を目指します。

コンプライアンス 推進

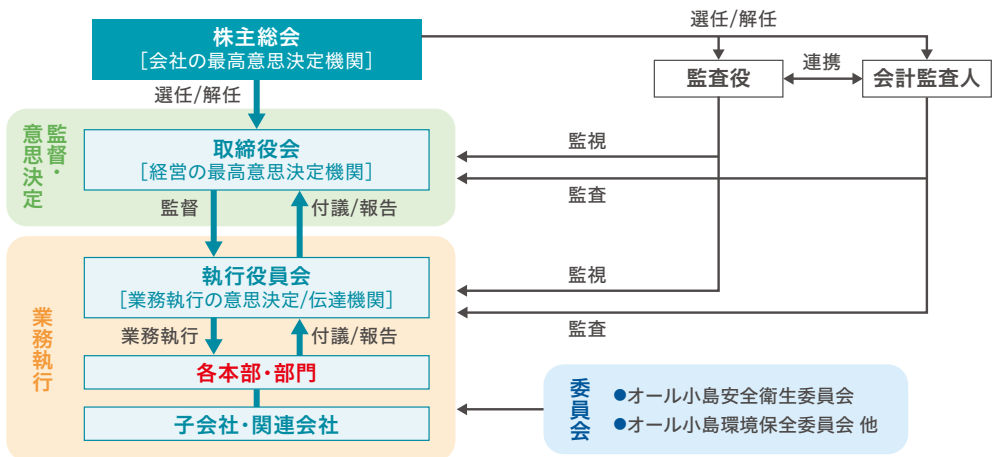
基本的な考え

法令を遵守し、公正・透明な自由競争や、迅速な意思決定を行う組織体制を開示することで、社会的信頼や企業価値の向上につながると考えています。また、リスクマネジメントにおいて近年特に注目されている情報セキュリティでは、リスクを未然に防ぐ管理体制の強化や、迅速なインシデント対応を可能にすることで、様々な外部環境の変化やリスクに柔軟に対応しています。

ガバナンス

当社は事業活動に関連する法令の遵守を徹底しています。2026年度より会社組織を『本部制』に移行することで、各本部との横串機能を充実させ、コーポレート本部を中心としたガバナンス体制の強化をしました。各本部がそれぞれの役割と機能を認識し、各種委員会ともさらに連携を強め、未然防止を推進していきます。

コーポレートガバナンス体制図



コンプライアンス

当社は、事業活動のあらゆる場面においてコンプライアンスを経営の基盤と位置づけ、法令遵守のみならず、高い倫理観に基づく行動の定着に取り組んでいます。近年、企業に求められる責任はますます高度化・多様化しており、継続的な教育・研修、リスクマネジメント体制の強化を通じて、健全で透明性の高い組織運営を推進しています。

今後も、すべてのステークホルダーの信頼に応える企業であり続けるため、コンプライアンス意識のさらなる向上と仕組みの強化に努めています。

担当者コメント

経営企画部
知財・法務課
渡辺 健介

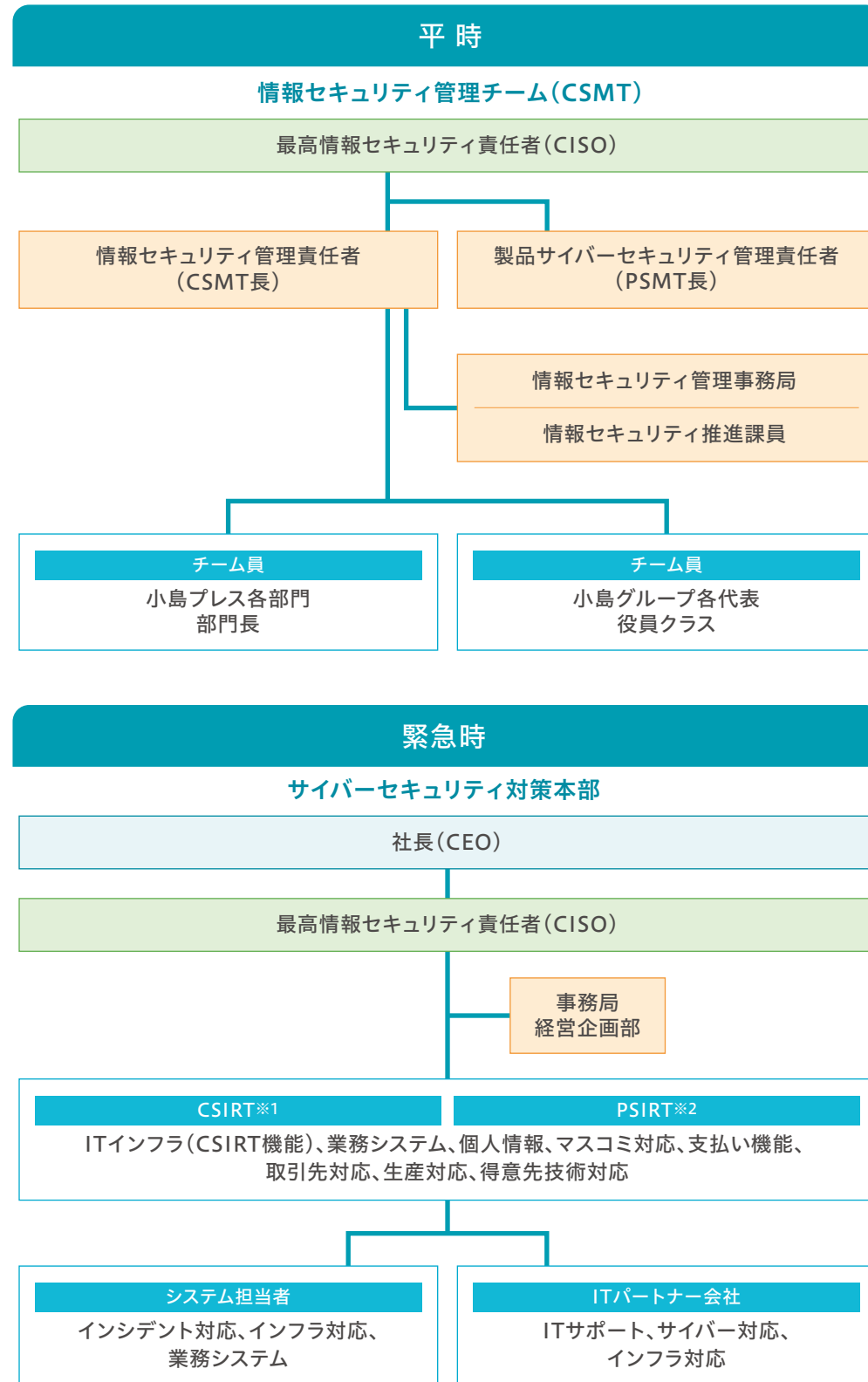


コンプライアンスはサステナビリティを支える根幹であり、日々の小さな判断の積み重ねが将来の信頼につながると考えています。オール小島の一員として、一人ひとりがその重要性を実感しながら考動することで、安心して働ける職場づくりにつながるとともに、持続可能な企業活動で社会に貢献するものと認識しています。これからも、オール小島におけるコンプライアンス意識の向上と理解の深化に向けた取り組みを推進していきます。

リスクマネジメント

情報セキュリティポリシーを推進するため、平時の情報セキュリティ組織体制に加え、緊急時における組織体制を制定しています。

情報セキュリティ組織体制図



※1 CSIRT(Computer Security Incident Response Team):企業内におけるセキュリティ問題を専門的に扱うインシデント対応チームのこと
 ※2 PSIRT(Product Security Incident Response Team):自社で製造・開発する製品・サービスに対するセキュリティの向上やインシデント(不具合や障害など)への対応を目的とする組織

システム障害 対応訓練

オール小島の全社員によるシステム障害対応訓練を実施しています。2026年は社員数名がウイルス感染を確認したことを想定し、初動対応として感染状況の把握と外部関連会社への連絡手段を確認しました。また、対策本部では被害状況を報告するまでの初動を確認。全社員が緊急連絡システムからの発報を受け、各自のパソコンのネットワークを遮断し、対策状況を回答しました。さらに新たな取り組みとして当社のインフラシステムを支えるベンダーも訓練に参加。ネットワーク遮断時の対応を確認し、緊急時のコミュニケーションを深める機会となりました。



営業部では得意先を書き出す

担当者コメント

IT企画部
主査 石川 正之

DXの推進に伴い、セキュリティ対策をさらに強固なものにしていくことが私達の役割だと考えています。2025年はJAMA自動車産業サイバーセキュリティガイドラインの達成と維持を最終目標に掲げ、ITのBCP対策の手順化や情報資産台帳の一覧化に取り組みました。DXとセキュリティ対策の両輪でオール小島の業務を支える体制を強化していきます。



IT企画部では想定される被害状況を確認

参加者コメント

生産企画部
補給管理課
課長 佐藤 功

『システムが使用できない状況下でも納期通りに納入すること』を目的に、補給部品の納入におけるサイバー訓練を年に2回実施しています。直近では、Gmailを用いた受注データの受け渡しや、かんばん・チケットの発行手順を確認。オール小島15社が参加し、各工場ネットワーク遮断時における補給部品の納入方法の仕組みを今一度理解する機会となりました。



対策本部では被害状況と全社での対応を確認



人権の尊重 ・ 働きやすい 職場づくり

障がいを持つ
社員が職場で活躍

男性の育児休業
取得促進

社会

Social



総務人事部・安全健康環境部
執行役員 角野 浩二

持続可能な社会を支える人づくりを推進

サステナビリティな事業基盤の確立を目指し、当社は人中心の経営のもと、得意先・サプライヤー・地域の皆様に支えられながら、社員一人ひとりが『考動』し、企業活動を継続してきました。社会に貢献できる人づくりを実践する中で、人権を尊重した働きやすい環境づくりに加え、健康経営の推進を通じて、心身ともに健康でイキイキと働ける職場づくりに取り組んでいます。人財育成は、公正な評価制度や教育体系の充実を図り、社員の挑戦を後押しすることで、一人ひとりの成長と活躍を支援しています。また、得意先やサプライヤーの皆様と新たな価値の創造に取り組むとともに、地域社会との交流や社会貢献活動を通じて、地域との共生と社会の発展に貢献します。今後も、全社員が活躍できる人づくりを通じて、持続可能な社会の実現を目指します。

給食の無償提供

基本的な考え

オール小島の社員がイキイキと働くためには、個人の権利が尊重され、様々な働き方に合わせた柔軟な制度を整えることが重要だと考えています。このような風土や環境を整備することで人権を尊重し、働きやすい環境づくりに努めています。

障がいを持つ社員の皆さんが活躍できる環境を醸成するため、従来の各職場への配属に加えて2018年から食堂スタッフとしての受け入れをスタートしています。多様な働き方の定着を目指して、2024年より当社のグループ団体である社会福祉法人こじま福祉会での出向研修を開始。長年の運営を通して培ったノウハウを共有し、受け入れる職場の社員の人財育成につなげています。

当社では育児休業制度を2歳まで取得することができます。また出生時育児休業（産後パパ育休）として男性社員も出生後8週間以内に最大4週間まで取得ができ、男性の育児休業取得率が向上。また、子どもが小学校6年生まで1日の所定労働を6時間に短縮できる育児短時間勤務制度を始めとした子育てをサポートする様々な制度があり、家族との大切な時間の提供を推進しています。



男性の育児休業取得率

73%  87%

2024年1～12月 2025年1～12月

※女性とはともに100%

育休取得者コメント

品質保証部
監査改善課
太田 隆盛



第一子出産に伴い6カ月の育児休業を取得しました。上司や同僚も応援してくれる雰囲気だったため、取得しやすかったです。休業中は育児・家事を主体的に担い、妻の身体的・精神的負担の軽減ができました。子どもの成長も間近で感じられ、妻やその両親の不安解消にもつながり、家族全員にとって良い時間となりました。

福利厚生の一環として無料給食制度があり、メニューは日替わりの定食や丼ぶり・麺類・カレーライスから好みの食事を選んで喫食することができます。また、近年の労働人口の減少や物価高騰など人材市場が激化する中で、社は『和』の考え方のもと、一緒に働く仲間の一体感の向上を目指して、2024年から派遣社員の方にも昼食の無償提供を開始しました。当社で就業するうれしさにつながっています。

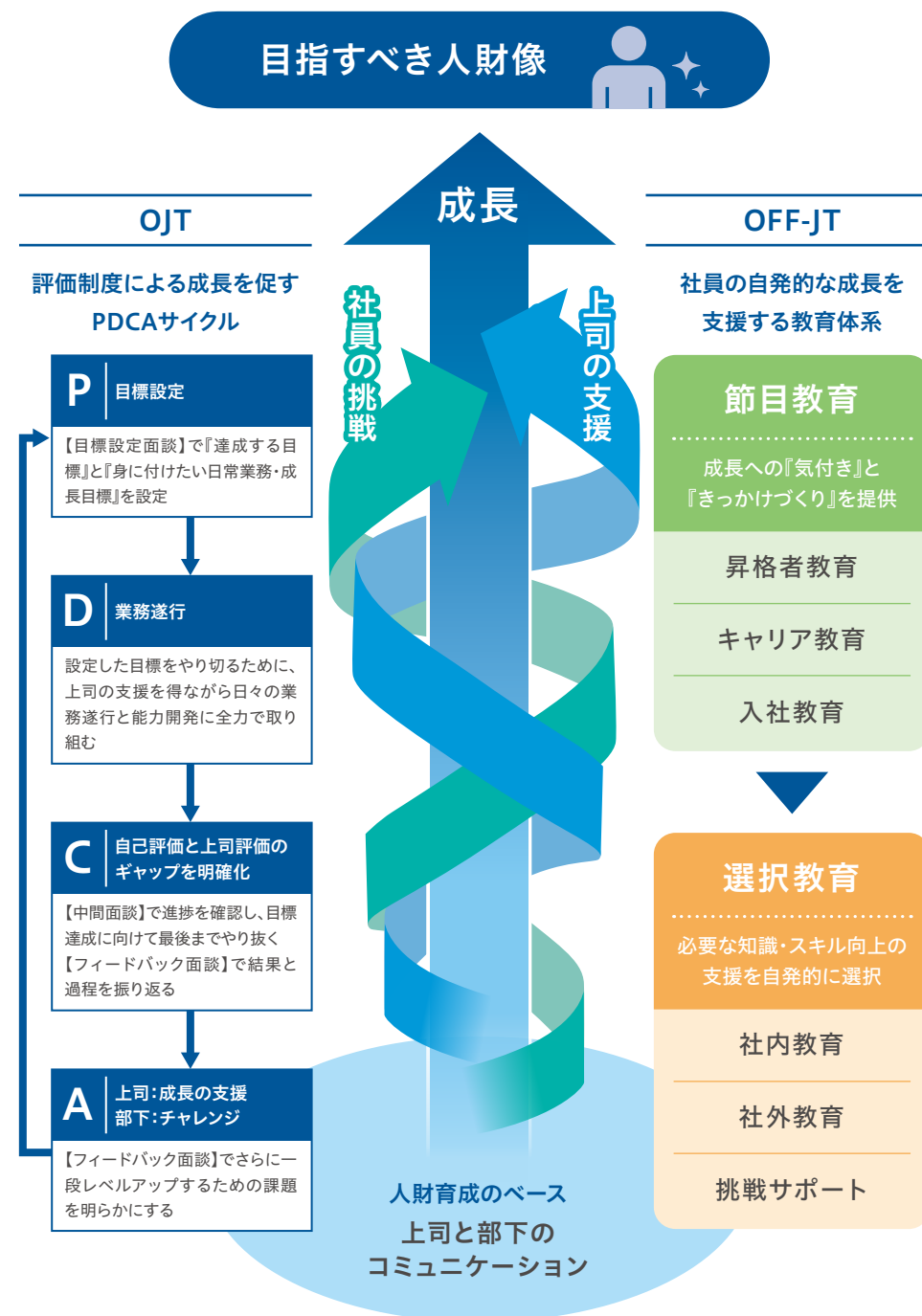


日常会話を楽しみながら喫食

基本的な考え

正しい評価制度の運用や、社員の挑戦を支援する制度を拡充することが、人財育成における根幹だと考えています。社員が自発的に成長し、社会に貢献できる人を育てることが私達の使命です。

当社では、キャリア形成と連動した教育体系と評価制度を構築しています。上司と部下のコミュニケーションが人財育成のベースとなり、社員の挑戦を上司が支援することで成長のPDCAを回し、目指すべき人財像への成長を促しています。その上で成長への気付きやきっかけを提供する節目教育や、必要な知識やスキルの向上を支援する選択教育を構えています。



節目教育

ありがたい姿を描き自発的な成長につなげるために、節目教育として昇格者教育、キャリア教育、入社教育を設けています。

昇格者教育

昇格した職層の『役割』と『発揮能力』の認識と向上を支援します。

キャリア教育

年齢の節目を迎える社員がキャリアを主体的に設計する支援を実施します。成長へのきっかけや気付きを提供することで、ありがたい姿を描いて自発的な成長につなげます。

入社教育

新入社員や中途入社した社員へ会社の理念やルールに関する基礎教育を実施します。



ロールプレイングを交えたマネジメント研修



約2週間にわたる新入社員の集合教育

選択教育

発揮能力や業務レベルマップと連動し、業務遂行において、必要な知識やスキルの向上の支援を自発的に選択できる制度を設けています。これにより、社員自身が描くありがたい姿に向けた挑戦を促す支援体制が整えられています。

社内教育

国家技能検定や愛知県認定技能などの業務に必要な技能の習得に向け、社員が講師となって教育を実施しています。

社外教育

社外の各団体や協会が提供している専門的なセミナーを受講することができ、その費用を補助しています。

挑戦・成長サポート

社員が自発的に成長できる支援として、eラーニングや通信教育、書籍購入・貸出を実施しています。自由な時間、タイミングで専門的な知識を習得し、自発的な成長を促しています。

受講者コメント

工務部
工務2課
小川 翼



Udemy Businessというe-ラーニングを受講しています。自身のスキルに不安があり、周りに追いつきたいという思いが受講を始めたきっかけです。エクセルの基本的な知識から入り、今ではAIの講義にも挑戦しています。講義のアウトプットとして、時間単位で表示ができる在庫管理システムを開発し、自身の業務の効率化にもつなげています。

基本的な考え

安全・品質・生産性の向上には社員の心身の健康が重要だと考えています。誰もが健康でイキイキ働ける、明るく楽しい職場を実現します。

経営課題にサステナビリティな事業基盤の確立を掲げ、中期方針として社員の「ワークエンゲージメント（働きがい）」を目指しています。その具体的な取り組みとして、MVVやオール小島サステナビリティガイドラインの策定、オール小島での新人事制度改革、健康経営などの多面的な活動を推進。また、全社へのアンケートやレポートの発行、ホワイト500を始めとする社外認証を活用し、社員一人ひとりが自信と誇りを持った働きがいのある働き方ができているかを評価しています。従来は生活習慣の見直しによる社員の健康づくりに注力していましたが、現在は健康づくりだけでなく、働き方全般にわたるより広い活動を通じて、健康の先にある明るく楽しい職場の実現に向けて取り組んでいます。

明るく楽しい職場の実現



経済産業省および日本健康会議から、大規模法人部門における『健康経営優良法人』として認定されました。認定内容は、同部門法人のうち、上位500社の法人の証である『ホワイト500』です。2025年に続き、6回目の認定となりました。「肥満予防のための生活習慣の改善活動」やストレス関連疾患の発生予防対策など積極的な取り組みが評価されました。

職場環境改善の活動

ストレスチェックの集団分析結果をさらに分析し、効果的かつ効率的な職場環境改善につなげるためのツールを利用しています。当社では1年後の会社の見通しとして、心理的ストレスやワークエンゲージメントなど8つの項目の傾向を把握し、労使と協力して各職場に合った職場環境の改善活動を実施しています。



抗加齢ドック



体の老化度を評価し、病気にならないための先制医療につなげる検査である抗加齢ドックを無償で受診することができます。30歳以上の社員を対象に、骨密度や血管年齢などを測定し、老化促進の要因を特定。検査結果をもとに老化リスクの対策支援を提供し、健康寿命を延ばすことにつなげています。

cocokaraコース

検査を中心とした抗加齢ドックに加え、メンタルヘルスと運動に必要な身体能力測定に特化した『cocokaraコース』を新設しました。心と体を意味する造語で、10年に一度の節目に自身の心と体の衰えを予防することが狙いです。30、40、50歳の節目に受診し、メンタルチェックでは疲労ストレスの測定、身体能力測定では初動負荷マシンによる運動や長座体前屈・握力測定など体験型の内容が特長です。



参加者コメント

先進技術開発部
電子商品開発課
主事 池田 朋之



cocokaraコースでは、『2ステップテスト』や『座位ステッピング』など、初めて測定する項目があり新鮮な気持ちで受診しました。普段から体を動かすことが多く、運動不足の実感はありませんでしたが、自身の身体能力を数値で把握し、標準値との比較により客観的に確認できたことはとても有意義な機会でした。今後も健康を意識した運動を心掛けていきます。

1日の歩数や日々の体重管理が可能な『健康増進アプリ(QOLism)』を活用し、運動増進を目的とした社内ウォーキングイベント『Kojiwalk(コジウォーク)』を実施しています。個人戦やチーム戦など様々なイベントを開催し、昼休憩時に会社周辺を歩く社員が見掛けられます。日常的なイベントの開催だけでなく、オール小島の社員が対象の行事と連携をすることで、運動増進につなげています。

**FUN
+
WALK**
PROJECT



休憩時間を利用し仲間と歩く

健康支援品支給 (Amazonビジネス)

『明るく楽しい職場』の土台となる社員の健康支援を目的に、毎年4回、健康関連の商品を購入することができます。商品はAmazonサイトで購入。従来の制度では米か野菜ジュースの配布でしたが、選択肢が広がり社員にも喜ばれています。



利用者コメント

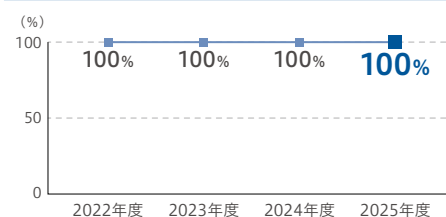
電子技術部
電子設計課
山中 太陽



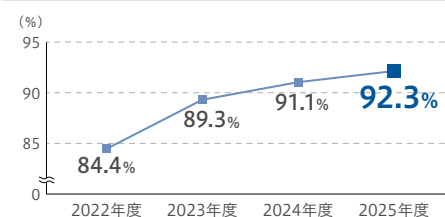
中途入社のため他社の福利厚生も調べていましたが、Amazonビジネスを使用した『健康支援品の支給』は非常に特徴的で驚きました。年に4回の支給対象月では、家族と一緒に商品を選ぶことが定着。健康支援品といっても幅広い商品が選択できるため、社員のニーズに沿った商品が選べる点が魅力的です。

健康指標の推移

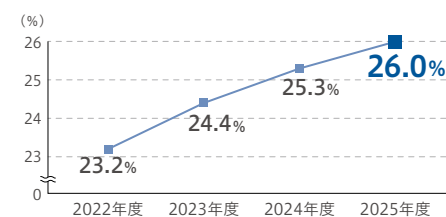
定期健康診断受診率



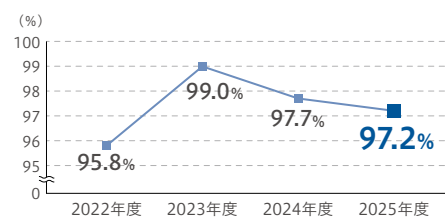
精密検査受診率



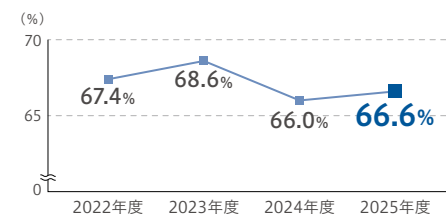
運動習慣者率



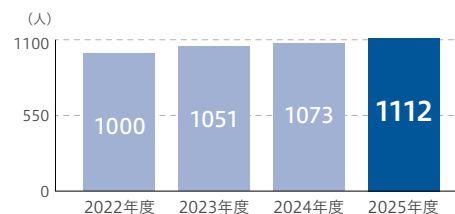
要治療判定者の治療状況確認率



適正体重者率



健康増進アプリ(QOLism)の登録者人数



安全・安心な 事業活動

安全活動の目的

労働安全の 3つの柱

トップによる 安全点検

基本的な考え

すべての労働災害は未然に防ぐことができると考えています。安全意識を高める人づくりを通じて相互啓発できる安全第一の風土を醸成し、労働災害を未然に防いでいきます。

目指す姿

- 心身ともに健康で定年を迎える
- 『明るく楽しい職場』を目指す

信念

- 労働安全：すべての労働災害は防ぐことができる
- 交通安全：加害者にも被害者にもならない
- 防火防災：一瞬ですべてを失う火災や災害のリスクを最小限に抑える

(安全指針)

「すべての労働災害は防ぐことができる」

安全活動の3本柱



項目	内容
フェルトリーダーシップ (人づくり)	フェルトリーダーシップとは、率先垂範のこと。安全衛生活動においては、管理監督者だけでなく『社員全員がリーダーのつもりでフェルト・リーダーシップを発揮する』ことを目指す。
リスク改善 (改善)	リスクを特定し、リスク低減措置を実施する。 ⇒リスク低減措置の優先順位に沿った対策 ①本質的対策 ②工学的対策 ③管理的対策 ④保護具着用
安全を支える 仕組み (コミュニケーション)	全員参加の安全活動と職場コミュニケーションの充実により、職場内に対する安全の働きかけや相互啓発ができる職場風土の醸成を目指す。



トップによる安全点検を年に2回、実施しています。各拠点におけるリスクアセスメントの内容や災害対策について現地現物で確認。全社が一体となって安全意識を高め、安心して働ける職場環境づくりに取り組んでいます。

労働安全

全社員が安心して働ける職場環境を構築するため、労働安全活動を全社で推進しています。特に、重大災害・準重大災害につながる恐れのある『ストップ6災害』を理解し、危険源を適切に管理すること。また、安全を最優先に考え、ルールを守り自身や仲間の身を守る行動をとれる『安全人間』の育成に注力しています。

活動内容

- トップによる安全点検
- 安全相談会
- 安全教育
- 安全ポケットブックに関するeラーニング



安全教育（労働基準協会による教育）



安全相談会でオール小島各社の好事例を共有

担当者コメント

安全健康環境部・安全推進課
山内 健

安全相談会の参加者として製造現場へ周知する立場から、オール小島各社の安全活動を横並びで見える役割へ環境が大きく変わりました。各社・各工場の多様な目標設定に寄り添った『安全人間』の育成に力を入れています。今後は全社の好事例を共有し、各現場に根付かせる取り組みに粘り強く取り組んでいきます。



参加者コメント

製造部・下市場生産2課
課長 佐野 敦

各社の安全活動を学ぶ中で、第一線の作業者を巻き込む環境の重要性を再認識しました。週に一度、作業者と職制が工場内を巡回し、安全の気付きを発信する活動をスタート。発信のリードタイムを短く、手軽にするためMS365のデジタルツールを活用しています。今後は、気付きから改善へ行動する意識を醸成していきます。



交通安全

ハンドルを握る者としての責任意識の向上と職場での注意喚起風土の醸成を方針に活動しています。2025年は、オール小島の安全運転管理者を対象に豊田警察署の交通課課長の安全講話を新たに実施。安全運転のさらなる浸透に向け知見を深める機会となりました。

活動内容

- オール小島統一立哨
- 事故速報の展開
- 車両解禁教育
- 豊田警察署の安全講話



オール小島統一立哨で安全運転の意識を高める



豊田警察署の交通課課長による講話

防火防災

災害時に取るべき行動の確認として、避難訓練と安否確認を実施しています。震度5以上の地震が発生した際、24時間以内の安否回答を遂行。また、2025年は新たにオール小島の防火管理者に対し豊田市消防署の職員による教育を実施し、災害対策の知見を深めました。

活動内容

- 避難訓練
- 安否確認
- 0次避難場所の点検
- 防火管理者の教育



避難訓練で災害時に取るべき行動を確認



豊田市消防署の職員による教育

お客様満足

基本的な考え

世の中に新しい価値を提供するためには、お客様のニーズを的確に把握することや期待を超える製品・サービスの提供が欠かせないと考えています。得意先とより固い信頼関係を構築し、ともに成長していきます。

当社は原価低減や魅力ある商品開発に対して常に新しい挑戦を続けており、その取り組みがトヨタ自動車(株)よりプロジェクト表彰として評価されています。2025年は全6賞を受賞しました。(抜粋して3賞を紹介)

技術の部

RAV4 フロアアンダーカバー

廃車由来のリサイクル材料『ASR材』を活用しサーキュラーエコノミーに貢献



原価の部



RAV4 オーバーヘッドコンソール

得意先と一体となり車型ごとに一品一様だった製品種類を共通化

原価の部

レクサスES コンソールボックス

表皮巻き工程の完全自動化と接着剤レスを実現



トヨタ自動車(株)より 年間表彰

トヨタ自動車(株)による 2026 TOYOTA Supply Partners Conventionが開かれ、当社の2025年の取り組みに対し、原価改善優秀賞、環境推進最優秀賞、SSA推進優良賞、補給改善躍進賞の4賞を受賞しました。原価改善優秀賞は今年で46年連続の受賞、環境推進最優秀賞は初めての受賞となりました。



原価改善優秀賞



環境推進最優秀賞

適正品質の企画

自動車部品の品質・性能の基準をユーザー目線で適正化する『SSA(Smart Standard Activity)』を推進しています。2025年は設計・生産準備段階における品質適正化に取り組み、3車型48件の案件を議論しました。



得意先と適正品質について議論

データサイエンスによる良品条件の追究

トヨタ自動車(株)が主催する『データサイエンス実践道場』に社員が参加し、データ分析を駆使した問題解決力を高めています。生産活動の中で蓄積されるビッグデータを活用し、不具合品をつくらない工程づくりに貢献しています。

担当者コメント

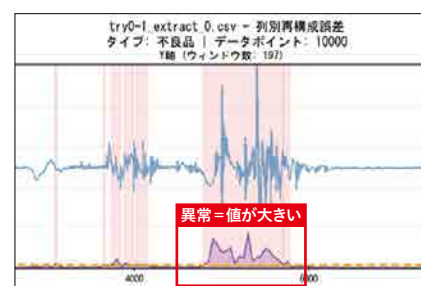
品質保証部 品質保証課
係長 若本 翔太



クリップの嵌合によって発生する振動データや射出成形における射出波形を活用し、良品判別に活用しています。将来的には、生産のサイクルタイム内で生産設備が良品と不具合品を判別できるよう、精度とスピードを高めていきます。



良品



不具合品

サプライチェーン

サプライヤーとの連携強化

パートナーシップ構築宣言

基本的な考え

サプライヤーは事業活動を推進する上でともに歩むパートナーです。公正・公平かつ透明な取引を順守し互いに切磋琢磨することで、信頼関係をさらに厚くし社会的責任を果たしています。

サプライヤーを含むチーム小島の競争力向上を目指し、毎年4月に『オール小島サプライヤーミーティング』を開催しています。調達・品質方針の説明や安全活動と健康経営の取り組みの紹介を通じて、安全・防災、品質確保、基盤強化、競争力強化などサプライヤーと目指す姿やチーム小島としての目標を共有し、コミュニケーションを図っています。また、品質向上・原価低減など様々な活動に対して貢献いただいたサプライヤーを表彰しています。



オール小島サプライヤーミーティングの様子



サプライヤーや価値創造を図る事業者の皆様との連携・共存共栄を図ることによる新たな価値の創出を目指して、『パートナーシップ構築宣言』を策定・公表しています。



●仕入先サステナビリティガイドライン

持続可能な社会の実現を目指し、安全・品質、コンプライアンス、人権と労働、リスクマネジメントなどについてサプライヤーへの要請事項をまとめた『仕入先サステナビリティガイドライン』を展開しています。

●小島プレス工業株式会社グリーン調達ガイドライン

企業が考慮すべき環境課題、特に環境マネジメントの進化、温室効果ガス、資源循環の促進などの活動を推進しています。サプライヤーとより一層の地球環境との調和を目指した事業を推進するため、『グリーン調達ガイドライン』を展開。また、環境支援活動の一環として、サプライヤー各社を訪問し、現地現物で確認することでコミュニケーションを図っています。

※PDF版は当社HPからダウンロードできます。
<https://www.kojima-tns.co.jp/wp-content/uploads/2024/11/green-procurement-guidelines.pdf>



●ともに成長を目指すための支援活動

サプライヤー各社の体質強化を通じたサプライチェーン全体の競争力向上を目指し、各社の様々な取り組みを支援しています。



防火点検活動



情報セキュリティ支援



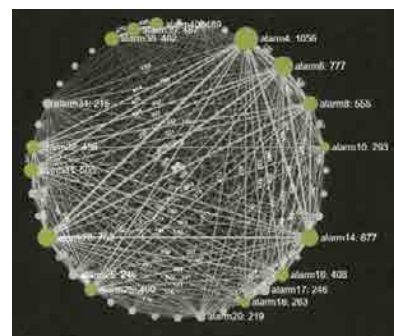
SSA現地確認会

改善できる『品質人財』の育成

社員が講師となり改善できる『品質人財』の育成を目標とした教育を実施しています。2025年は、ビッグデータを活用した品質管理手法に注力。『DN7』というデータ可視化ソフトを活用し、ビッグデータの活用方法を教育プログラムに加えました。



ビッグデータ活用ソフトについて教育



ビッグデータを活用した品質管理手法『共起グラフ』

原価低減活動を通じたモノづくり人財の育成



トヨタ生産方式自主研究会を高岡工場で実施

トヨタ生産方式に基づく原価低減の推進と人財育成を目的として、2025年2月から9月に、トヨタ生産方式自主研究会を高岡工場で実施しました。『考動する人を鍛える工場』の実現に向け挑戦。『ジャストインタイム』をテーマとした改善では、正味作業に拘った工程について考案、『自動化』では、生産性阻害の要因撲滅に向け、不具合発生メカニズムを研究し、頻発停止を低減することで、目標を達成しています。

基本的な考え

私達にとって、地域貢献とは『地域への恩返し』であると考えています。当社が企業活動が続けることができるのは地域の皆様からの信頼や協力のお陰であることを忘れず、常に『感謝』の意識を持って地域社会との共存に取り組んでいます。また、国際交流への取り組みにおいては、中国を始めとする諸外国との友好を深め国際社会の発展に寄与しています。

地域の一員として地域住民の方とコミュニケーションを図り、日頃の感謝を伝えることを目的に、豊田市金谷町にある社員寮『誠和寮』の寮生が中心となって企画・運営する地域交流イベントを開催しています。日頃から会社の取り組みを知っていただき、地域の皆様の意見を聞くことを大切にすることで、会社と地域住民との距離感を縮めています。また、イベントの開催以外にも寮生による地域清掃や防犯パトロールなど、『自分達が住む町を自分達の手で住みやすくする』活動に取り組んでいます。



地域観桜会で地域の方と交流を深める



工作教室



寮生が参加する地域清掃活動

担当者コメント

総務人事部
総務課
花村 ひらり



地域観桜会は『幅広い世代が楽しめる場』をコンセプトに企画しました。全員が参加可能なビンゴ大会や、地域の方による踊りや歌で会場を盛り上げることができました。参加した地元住民の皆さんとの交流を深める場となり、地域貢献活動の重要性を感じました。

取り組み一覧

- 地域観桜会
- 工作教室
- 地域清掃活動
- 防犯パトロール

豪雨や震災などの大規模な自然災害のリスクが高まる中、災害発生時における緊急支援の円滑な実施と地域防災に対する共助意識の向上を目的に、会社周辺の5つの自治区と地域防災協定を締結しました。避難場所や食料などの提供はもちろんのこと、日頃から相互の協力体制と連携を構築することで、災害に強い町づくりに貢献します。

福祉活動

1971年に社内託児所を前身とする『こじま保育園(現:こじまこども園)』の設立・運営をスタートしてから現在まで、グループ団体である社会福祉法人こじま福祉会が主体となり、福祉活動を通じて様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

豊田市内のこじまこども園では、ちびっ子パトロール隊として地域の防犯活動に積極的に参加し、豊田警察署から感謝状が贈られています。また、こじま福祉会の活動への地域理解や従業員との交流を深めることを目的に、『こじまキャンパス』と『こじま障がい者就労支援センター 豊田市さくらワークス』の従業員を中心に、2025年ワーキャン祭りを開催。車椅子やボッチャの体験、太鼓の演舞を披露し交流を深めました。

こじま福祉会

- こじまこども園
- こじまキャンパス
- 豊田市さくらワークス



従業員が中心となって実施した2025年ワーキャン祭り



ちびっ子パトロール隊が園周辺をパトロール

1984年に海外留学生を受け入れたことから国際交流活動がスタートしました。同年、(財)コジマ国際育英協会(現:(一財)コジマ財団)を設立し、アジアを中心に多くの留学生を受け入れ、現在も国際交流を継続しています。また、交流だけでなく、日本のモノづくりや伝統文化を体験してもらい、母国と日本の架け橋になるための人材育成にもつなげています。



中国青海省・小島奨励金授与式が実施された



青海省短期留学生が愛知工業大学の学生と交流



青海日本文化交流のつどいでは多くのイベントを開催

取り組み一覧

- 中国青海省・小島奨励金
奨励金授与式
- 青海日本文化交流のつどい
- 青海省短期留学生の受け入れ
- こじま留学生寮の提供

国際交流



環境
マネジメント

ありたい姿

KOJIMA
環境チャレンジ
2050

環境
Environment



総務人事部・安全健康環境部
執行役員 角野 浩二

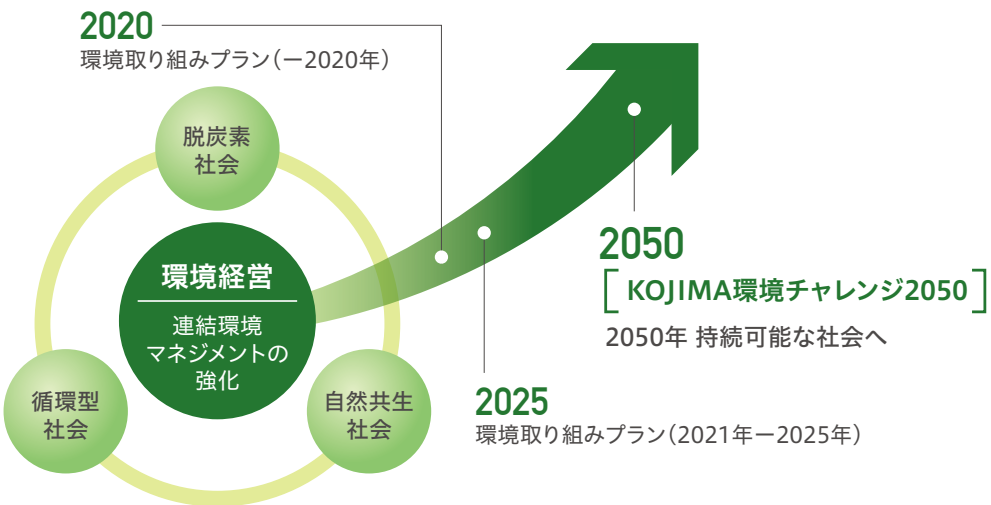
環境価値を高め、持続可能な社会へ

当社は創業以来、『物を大切にする、生かす』という考えのもと、省エネルギーやリサイクル活動を実践し、地球の環境資源を大切にしてきました。現在は『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』を環境経営の3本柱として、持続可能な社会の実現に向けた活動を推進しています。2025年度は、自動車由来の再生材活用や資源循環技術の確立、省エネルギー活動の推進、サプライヤーとの協働による環境負荷低減などの取り組みが評価され、トヨタ自動車㈱より『環境推進最優秀賞』を初受賞しました。また、60年以上にわたる里山保全活動を継続し、環境省の『自然共生サイト』に認定された豊田市小原地区の『こじま苑』での取り組みを通じて、生物多様性の保全や環境教育、地域との共生活動を推進しています。今後も環境経営の3本柱を軸に新たな価値を創出し、得意先やサプライヤーの皆様とともに持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。

トヨタ環境推進
最優秀賞受賞

基本的な考え

開発・生産・物流などの事業活動を通じて、持続可能な社会の構築に貢献していくため、『脱炭素社会』、『循環型社会』、『自然共生社会』の3本柱を構築することで環境への取り組みを推進します。



環境軸	取り組み項目	実施項目
脱炭素 (気候変動・CO ₂)	①工場CO ₂ ゼロチャレンジ	脱CO ₂ 生産技術の開発・導入と日常改善活動によるCO ₂ 低減活動の推進、温室効果ガスの低減
	②ライフサイクルCO ₂ ゼロチャレンジ	製品開発における環境マネジメントの推進(環境負荷評価)、環境に配慮した設計、物流活動における輸送効率追求とCO ₂ 低減
循環型 (資源・水)	③水環境インパクト最小化チャレンジ	生産活動における水使用量の低減と節水活動、水のリサイクル活動
	④循環型社会・システム構築チャレンジ	生産活動における排出物の低減、再生可能資源・リサイクル材活用による枯渇天然資源の使用量低減、物流活動における梱包資材の低減と有効利用、廃車部品に対するリサイクルシステムの展開
自然共生	⑤人と自然が共生する未来づくりへのチャレンジ	各事業所における自然保全活動の推進、森林保全活動による環境貢献
マネジメント	マネジメント	環境法令遵守と環境リスクの未然防止活動、苦情ゼロ活動の推進、製品化学物質管理の充実、環境教育を通じた啓発活動

トヨタ自動車㈱による2026 TOYOTA Supply Partners Conventionが開かれ、環境推進最優秀賞を初受賞しました。これはオール小島での環境負荷低減の取り組みと、サプライチェーン全体へと広がる活動によるカーボンニュートラルへの貢献が高く評価された結果です。

今後もさらに環境活動の価値を追究し、新たな価値を創出することで得意先に必要とされ続ける企業を目指します。



脱炭素社会

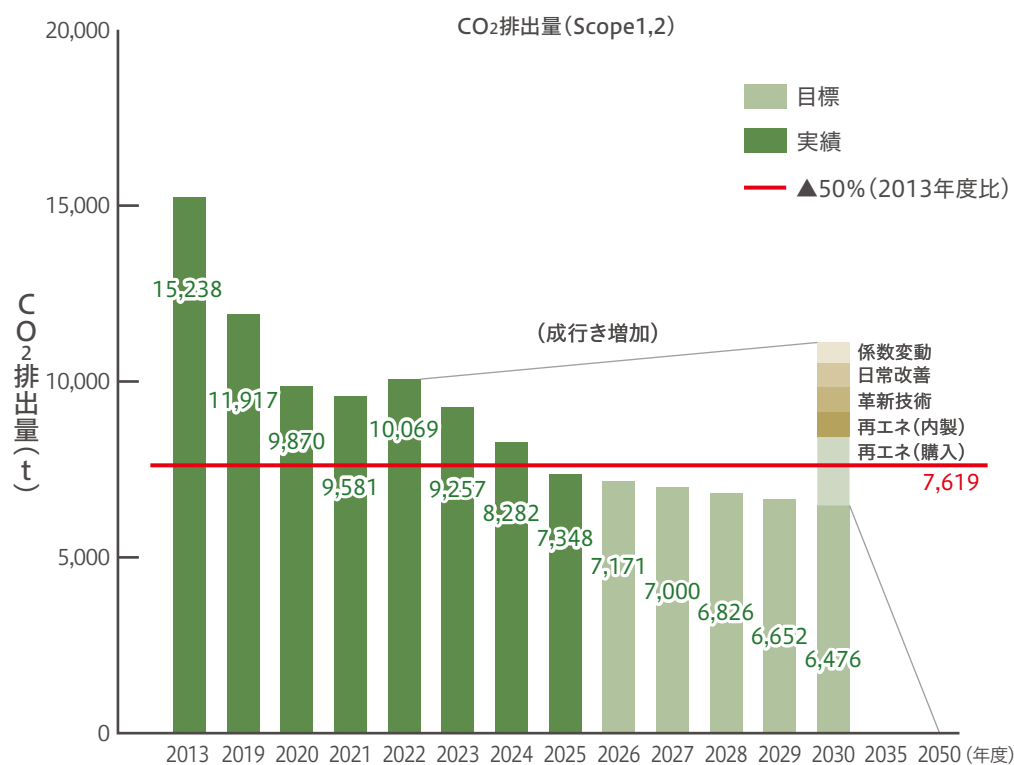
当社では、2050年カーボンニュートラル達成（地球温暖化の問題解決）に向け、CO₂排出量の低減を、生産・技術の両面から推進しています。『ヤメル、トメル、サゲル、ナオス、ヒロウ、カエル』の視点で、省エネルギー（以下、省エネ）効果が見込める事例を設備ごとに一覧化した帳票を用いて、製造部門を中心にムダ・ロス低減活動を実施しています。2024年からエネルギーの可視化を開始し、明らかになったムダ・ロスを運用ルールに落とし込み、標準化につなげています。また、太陽光発電を始めとした再生可能エネルギーの導入も実施。2025年度のCO₂排出量は前年度比11.3%減となりました。今後は、より省エネ性能の高い設備への計画的更新や革新技術の導入・活用を重点に置き、エネルギー低減活動に取り組んでいきます。

2025年度の活動

単位:t-CO₂

項目	目標	実績	取組内容
省エネルギー (運用改善/技術革新)	▲162	▲333	●高効率材料乾燥機の導入 ●工業用水ポンプ制御自動化 ●成形材料の予備乾燥レス化 ●BeONEによる空調機の圧縮機出力制御 ●省エネガイドライン発行による設備導入/運用指針の提示
再生可能エネルギー	954	1,437	●太陽光発電設備の設置 ●CO₂フリー電気の購入

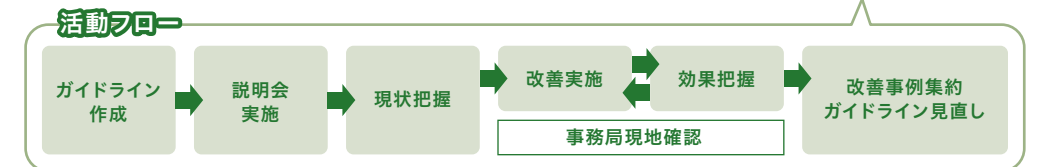
工場CO₂▲50%に向けたシナリオ ※グラフは4～3月実績



『省エネ推進会』 による工場CO₂ 排出量低減の活動

オール小島の工場CO₂低減を加速するため、『省エネ推進会』を運営しています。活動指標として①設備別エネルギー使用量一覧表の整備 ②『省エネガイドライン』の作成・改善実施——を掲げ、省エネ施策を展開しています。エネルギー消費の大きい設備を把握して改善対象の優先順位を明確化し、ガイドラインに沿った省エネ設備の導入・更新や運用管理の徹底を進めることで、工場全体のCO₂排出量低減に取り組んでいます。

「ヤメル」「トメル」「サゲル」「ナオス」「ヒロウ」「カエル」6つの視点



省エネ事例：レトロフィット式ラピッドドライヤーの導入

樹脂成形工程では樹脂ペレットを材料乾燥機で一定時間乾燥させており、ヒーターによる使用電力量が大きいです。2025年度には既設の乾燥機に対し、ラピッドドライヤー（乾燥タンク内加圧ユニット）を接続する改造を実施。タンク内を加圧することで材料乾燥時間を約50%短縮し、使用電力量も54%低減させることができました。

年間低減効果 **13t-CO₂/年・5台**



担当者コメント

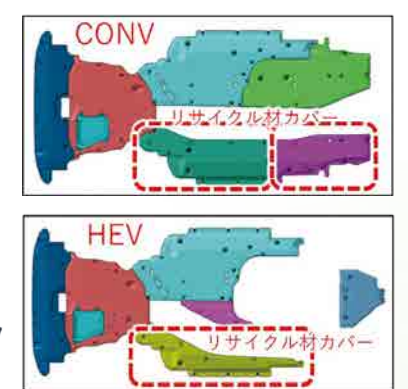
製造技術部
高岡設備技術課
主事 本田 哲史

新規部品で乾燥材料の使用量が増加したことを背景に、本件に着手しました。レトロフィットはメーカー初の試みであり、水分率を始め乾燥条件の最適化に苦労しました。圧力調整を鍵に各部門・メーカーと連携し、試行錯誤の末に実現。既設比で大幅な省エネを達成しており、今後は他工程への展開を進めていきます。

製品CO₂排出量 低減の活動

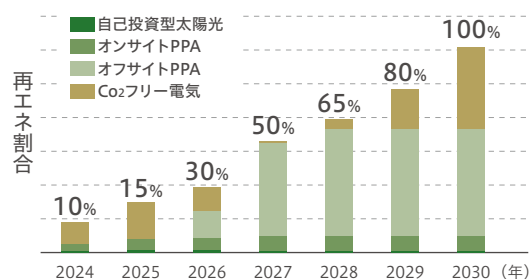
資源循環社会の実現に向け、廃車を破砕した残さの樹脂片であるASR材(※)から再生されたPPを使用してRAV4のフロアアンダーカバーに採用しました。これにより製品のCO₂排出量の低減を実現。ASR材の製品化は国内初となります。

※Automobile Shredder Residueの略。使用済み自動車からエアバッグ類やドア、エンジンなどの部品を取り外し、破砕して有用金属を回収した後に残るもの



オール小島では、電気使用量のうち、再生可能エネルギー（以下、再エネ）が占める割合を、2030年度100%にすることを目標に、太陽光発電の設置やCO₂フリー電気の購入を進めています。今後はさらなる利用拡大のため、バイオマス発電所や風力発電などの再エネ由来電力の環境価値のみを長期的に購入する手段も加えて、目標達成に必要な量の確保を目指します。

■オール小島 再エネ調達ポートフォリオ



昌和合成

	2024年度	2025年度	2026年度
目標再エネ率	10%	15%	30%

2025年度
太陽光発電追加設置5事業所
年間追加の発電量 2,312,279kWh/年

担当者コメント

安全健康環境部
環境推進課
主事 神村 道雄



初の再エネ調達ポートフォリオ(※)作成で、調達価格の将来の見通しや各調達手段の量や導入のタイミングの検討に苦労しました。官公庁資料や各社のベンチマーク、有識者へ相談など、広く情報収集することで調達手段を最適化することができました。今後も得意先の期待に応え、選ばれる会社づくりに貢献するとともに改善を継続し、コストの最適化も図ります。

※ポートフォリオ：複数の要素を組み合わせた全体構成のこと

サプライヤー各社が、より一層の環境保全活動を推進できるよう『小島プレス工業株式会社グリーン調達ガイドライン』を発行しています。サプライヤー各社が一同に集まる『サプライヤーミーティング』において省エネルギー（以下、省エネ）の各種活動に対して協力を依頼しました。活動としては、協力会社のCO₂排出量の把握や省エネ事例の展開を開始し、一部の主要会社の現地確認を実施しながら、カーボンニュートラルに対する取り組み状況や困りごとを共有。また、2025年度は今後も継続的に自立して実施していただけるサプライヤーに対し感謝状を授与しました。現在も、サプライヤーが主体となって、困りごとを解決できるように活動支援を計画しています。引き続きサプライヤーと目的や目標を共有し、対話を重ねることで、サプライチェーン全体でCO₂排出量の低減活動を定着していきます。

主な活動内容

- (1) 環境マネジメントシステムの構築
- (2) 温室効果ガス(GHG)の削減
- (3) 水環境インパクトの削減
- (4) 資源循環の推進
- (5) 化学物質の管理
- (6) 自然共生社会の構築



現地現物で省エネ活動を実践

2025年度実績

実績把握	190社以上
好事例紹介	27事例紹介
現地意見交換	10社
CO ₂ 低減量 (上記10社分)	34.43t
実施事項	●成形機非稼働時電源OFF ●成形機ヒーター非稼働時電源OFF ●成形機ヒーター昇温開始時間の最適化 ●間接加熱設備の温度管理 (ホッパードライヤー事例) ●集塵機モーターON/OFF管理 ●コンプレッサー使用状況管理 ●乾燥機改善

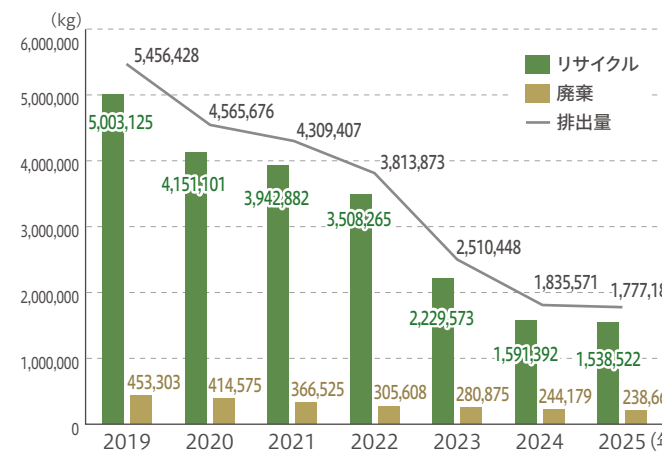
ありたい姿・ 排出物の量・ リサイクル率

循環型社会

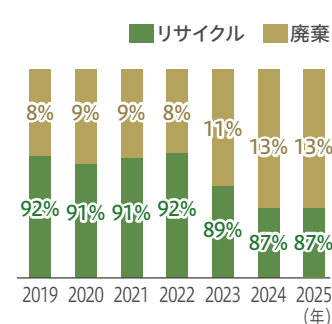
サーキュラーエコノミーの実現に向け、オール小島では、工程内、クローズド、オープンリサイクルを推進しています。工程内リサイクルでは、成形工程で発生するスプール・ランナーなどの樹脂材を粉砕し、同一工程または同等用途の原料として再利用しています。クローズドリサイクルでは、工程内の不具合品、樹脂ダンゴや延べ板などの工程由来の樹脂を再資源化し、当社の製品への活用を図っています。オープンリサイクルでは、廃車由来のリサイクル材だけではなく漁網やウォーターボトルなど自動車産業以外から排出される廃プラスチックの活用技術を開発しています。これらの取り組みにより、資源循環の拡大と材料の安定調達を図るとともに、品質確保に向けた技術開発を推進しています。



■年別リサイクル量・廃棄物量推移グラフ



■年別リサイクル比率推移



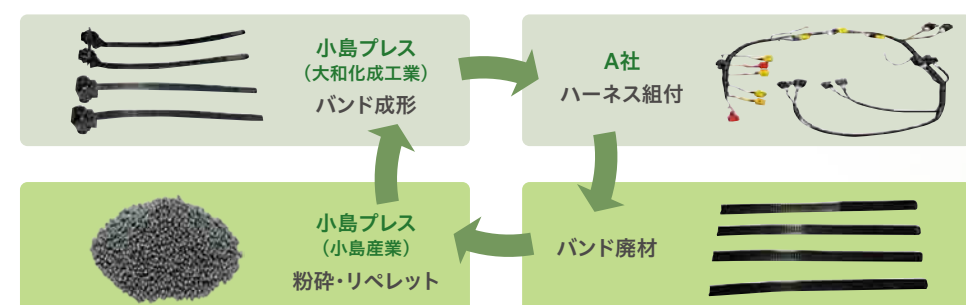
社内の廃棄物排出量は毎年減少傾向だが、リサイクル率は90%前後を維持

クローズド リサイクルに 向けての取り組み

欧州を中心とした環境規制の強化を背景に、得意先からは2030年以降に日本や欧州で新たに販売される車両に対し、使用材料に占めるリサイクル材の割合を30%とすることが求められています。こうした要請に対応するため、オール小島ではクローズドリサイクルの拡大に向け、協豊会活動を通じて、ハーネス組付工程で発生したバンドの端材を回収し、小島産業で粉砕・リペレット化した後、大和化成工業のバンド成形材として再利用する『バンド to バンド』の取り組みを進めています。サプライチェーン全体での資源循環の構築とリサイクル材活用拡大に向け、その有効性や実現可能性を検証しています。

バンドクランプ廃材リサイクル

バンド to バンド(クローズドリサイクル実現)



自然共生社会



こじま苑

こじま苑は、里山環境が形成されている福利厚生施設です。土地を譲り受けた当初は工場用地として利用予定でしたが、故・小島鏖次郎会長（以下、鏖次郎会長）が「この自然を生かすべきだ」と考え、緑豊かな自然の美しさをさらに高めるため、人間が手を加え自然になじむ姿（＝里山）へと変化するよう、60年以上にわたり整備・維持管理を実施しています。

生物多様性の保全として、名古屋工業大学や金城学院大学と連携し、植生・昆虫調査、水質調査を実施しています。また、希少種保全や外来種駆除活動の結果、希少性の高い動植物が確認されています。2025年には、絶滅危惧ⅠB類に指定されるオオキトンボが新たに確認されました。これらの活動が評価され、『令和6年度後期自然共生サイト』および『あいち生物多様性優良認証企業』に認定されています。今後も認定にふさわしい自然環境と生物多様性の保全に努め、継続的な取り組みを推進していきます。また、この豊かな自然を未来へつなぐため、社員参加型の活動として『つむぐWaの会』を新たに発足しました。人と自然、人と人をつなぐ“環(Wa)”を育みながら、持続可能な自然共生の実現を目指していきます。



オオキトンボ



連携大学生による水質調査の様子



苑内の竹を使用した希少種性植物の保護

各イベントによる 活動

社員とその家族を対象とした植生観察会、昆虫観察会、桜や紅葉を楽しむ散策のつどいなどのイベントを実施しています。2025年度は初めて田植えイベントを実施。また、秋の散策のつどいでは初めて地域の方々に参加いただきました。これらの取り組みは、自然に触れ合う機会の提供を通じて、自然環境への理解促進と環境意識の向上を図るものです。併せて、次世代への環境教育および地域社会への啓発活動の一環として位置付けています。



田植え



昆虫観察会

昆虫観察会参加者コメント

第2内装設計部
リア・トリム領域3課
係長 鈴木 永基



子どもが昆虫好きですが、自宅付近では虫を捕れる場所がないため、自然に触れ合い、見るだけでなく実際に触れる体験をさせたいと思い、参加しました。トンボを夢中で追いかけて楽しんでおり、珍しい種類も見られたので、私自身も一緒に楽しむことができました。植生保護の大切さも実感できたので、今後も参加したいです。

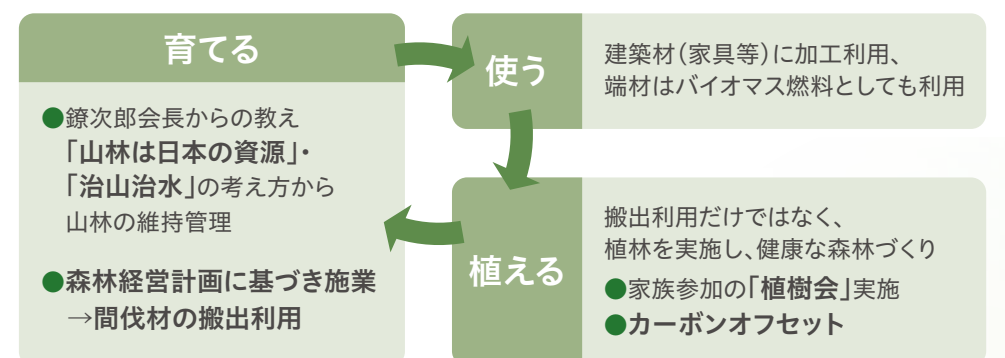
宮川社有林の 植樹会

2019年からオール小島の社員と家族を対象に三重県多気郡大台町の社有林で植樹会を実施しています。自然条件に適した木を選んで、針葉樹と広葉樹、常緑樹と落葉樹を組み合わせた、多様性が高い森づくりを目指しています。これまでに延べ136名が参加し、900本を植樹しました。これにより、約639tのCO₂削減効果が見込まれており、本活動を通じてSDGsにも貢献しています。今後も、植樹活動を継続することで、生物多様性の保全やCO₂削減に取り組んでいきます。



植樹会

持続可能な森林管理



memo



小島プレス工業株式会社

問い合わせ先／渉外部 渉外広報室 広報課
TEL.0565-34-6868(代表)
発行／2026年10月
対象期間／2025年4月～2026年3月

<https://www.kojima-tns.co.jp>

